

教える、というより学ぶ — 子供建築塾の六年間 —

一・子供と一緒に建築を考える

六年前の二〇一一年に私塾を始めた。建築を志す最近の若者は、余りにも思想がないと感じたからである。現在の社会に対する自身のはつきりとした主張を持って欲しいと願ったからである。

そんな若者向けの塾生講座と同時に子供向けの講座を併設した。小学校の四年生〜六年生くらいの子供約二〇名を対象にした一年単位のコースである。動機は美術館で個展を行うと、必ずと言ってよいほど子供の一日ワークシヨップを要請される。竹を使ってドームをつくったり、街の敷地模型を用意して、その上に子供達が思

い思いの建築をデザインして街の賑わいをつくる、といった類いである。

こうしたワークシヨップを繰り返してその楽しさを知るにつれ、子供達と一年間通して建築について考えてみるとどんなことになるかを試してみたくなった。

対象を小学校の上級生にしたのは、この年齢の子供達は精神的に大きく変化し、成長する年頃だからである。夢を自由に描ける一方で、理性的にものを考えることも出来る。中学生になるともはや大人としての常識が勝ってしまう。

二・子供の夢は無限に広がる

講座は年二〇回、毎年前半一〇回は「いえっ

穴が開けられていて、その間がらせん状の階段で結ばれている。生物の進化を表現するだけでなく、四世代の動物が折りに触れて交流すると言うのだ。プレゼンテーションの際にも素晴らしい模型を指さしながら、自分の想像の世界にどっぷりと浸る姿に皆感動を覚えた。

建築学科の大学生がこれ程壮大な構想を語る姿に出会ったことはない。一年前の発表の時には上手くいかなくて泣いていた子が、これ程成長した姿に触れて子供塾の意義を改めて痛感した次第である。

三・大人より凄い子供がいる

或る年、「動物と一緒に暮らす家」という課題を与えた。このテーマに対しほとんどの子供は鳥と一緒に住む、とか魚の泳ぐ水族館のような家を描いたのだが、一人の男の子の描いた家には心底仰天した。

この子は怪獣が大好きで、我々が知らない怪獣の生態について驚くべき知識を備えていた。そこで生命誌研究者の中村桂子さん監督の映画『水と風と生き物と』のDVDを彼に与えた。生物発生の歴史とその多様性を描いた映画である。このDVDを見た男の子が描いた家は生物誕生四〇億年の歴史を綴った家である。即ち現生鳥類の先祖と言われる始祖鳥、彼の大好きな怪獣、現在も棲息するムササビ、それに人間が壁を隔てて住む家である。しかし壁には大きな

子供達は一年に一度建築家のデザインした住宅を見学に出かける。三年ばかり前、或る著名な若手建築家による都心の家を訪れた。その家は狭い土地に建つ四階建ての住宅で、外側はほぼ全面ガラスに覆われていた。全体が廻り階段と言えるような家で、らせん状にオープンな部屋が続いていて、最上階に浴室があった。

四・子供建築塾ほど楽しい時間はない

子供達は初めて体験する大胆な空間に、驚き、困惑の表情を隠せなかった。一通り見終わった後に一人の女の子が、住まい手の主婦に訊ねた。「こんなガラス張りの家では掃除するのは大変ではないですか」「こんな高い所にある透明なお風呂には恥ずかしくて入れないのではない

て何だろう」「後半一〇回は「まちって何だろう」というテーマに基づいて、恵比寿にある私のスタジオで土曜日の午後に行われる。講師は私以外に一〜二名、その他建築学科の学生を中心としたボランティアのTA（ティーチングアシスタント）約一〇名で構成される。

前半・後半とも最初の回に具体的な場所やテーマが与えられ、講師のオリエンテーションでスタートする。TAの学生達と話し合いながらスケッチブックにイメージの絵を描き、回を重ねるとともに具体化していく。或る程度イメージがはつきりしたところで模型の製作に入る。最終回には絵と模型を示しながら全員の前でプレゼンテーションをする。まるで建築学科の大

ですか」

主婦が答えた。「ここに移ったばかりの頃は戸惑ったけれど、少し慣れてきたらこんなな気持ちの良いお風呂はないと思えるようになった。ガラスの掃除も多少は大変だけど明るい部屋からの素晴らしい眺めに較べたら何でもないことです」

質問した子は必ずしも納得したようには見えなかった。他の子供達も「こんな家ってアリ？」という顔で帰途についた。しかし二週間後に塾で再会した子供達の態度は変わっていた。自分の考えていた家の随所に見学の影響が現れていた。

小学生でも既に、家とはかくあるべし、という常識が培われている。透明な家を訪問することによって、そうした常識からかなり解放されるようなことをしてもいいんだ、という自由な気持ちになることが出来たのである。

この年代の子供達は実に柔軟な精神構造を持ち合わせている。それを硬くしてしまっているのは我々大人であり、子供達を取り巻く教育環境なのである。

私にとって子供塾は、いまや最も楽しい時間である。私も学生達も子供に何かを教える、と言うより子供から多くの事を教えられるからである。

伊東豊雄建築設計事務所 代表
Toyo Ito

